IB (R6. 10. 10)	新(R7. 4. 10)	備考(頁は新で記載)
Ⅱ 設計積算	Ⅱ 設計積算	I 錯語修正
1. 土工	1. 土工	
(2) 埋め戻し位置の表示	(2) <mark>埋戻し</mark> 位置の表示	
5. 治山ダム	5. 治山ダム	Ⅲ 錯語修正
(8) 下流部分の <u>埋め戻し</u>	(8)下流部分の <u>埋戻し</u>	
(11) 治山ダム工の水平打継の処理	(11) 治山ダム工の水平打継の処理	
③ 挿筋規格・形状・配置 <u>(別紙-5)</u>	③ 挿筋規格・形状・配置	錯語修正
Ⅱ 設計積算	Ⅱ 設計積算	
1. 土工	1. 土工	
(5)護岸工・土留工の土工は別冊(P1 [~] 7)「護岸工・土留工・	(5)護岸工・土留工の土工	P.5 項目名と内容を改
適用基準」のとおり取り扱うものとする。	別冊(P1 <u>~</u> 7)「護岸工・土留工・適用基準」のとおり取り扱	行 表記統一
	うものとする。	
- NEC 140	a NEELIAN	
2. 運搬工	2. 運搬工	
(1)索道運搬	(1)索道運搬	
⑤索道設計フローチャート ・ まなのはウロバウまの社会はまり際まり問題 PO~11) さら	⑤索道設計フローチャート	P.7 表記統一
主索径の決定 別 <u>紙</u> 主索の許容荷重一覧表 (別冊 P8_11) から	主索径の決定 別 <mark>冊</mark> 主索の許容荷重一覧表(別冊 P8 <u>~</u> 11)か	
主索径を決定	ら主索径を決定	
(3)不整地運搬車運搬	(3)不整地運搬車運搬	

IB(R6. 10. 10)	新(R7. 4. 10)	備考(頁は新で記載)
③ 運搬車規格の選択	③ 運搬車規格の選択	
渓床路等幅員の狭い(3級林道以下)路線では小型不整地運	渓床路等幅員の狭い(3級林道以下 <u>又は全幅員 2.6m 以下</u>)	P.8 細部基準改正反映
搬車(2t)を標準とし、 <u>資材運搬路のうち縦断勾配が 16%</u>	路線では小型不整地運搬車(2 t)を標準とし、全幅員 2.6m	
以上の路線(路線の一部の縦断勾配が 16%以上となる路線を	<u>を超える路線</u> では不整地運搬車(6 t)を標準とする。	
<u>含む)</u> では不整地運搬車(6 t)を標準とする。		
(5)コンクリートポンプ車打設	(5)コンクリートポンプ車打設	P.11 表記統一
② ポンプコンクリートの圧送限界	② ポンプコンクリートの圧送限界	
計算方法は、別冊 P13_15 のとおり。	計算方法は、別冊 P13 <u>~</u> 15 のとおり。	
5. 治山ダム	5. 治山ダム	P.16 表記統一
(3)治山ダム形式及び設計因子	(3)治山ダム形式及び設計因子	
重力式コンクリートダムの断面決定に際しては、 <u>別紙</u> P29~46	重力式コンクリートダムの断面決定に際しては、 <mark>別冊</mark> P29~46	
「重力式コンクリートダムの断面」による。	「重力式コンクリートダムの断面」による。	
(7)治山ダムの間詰	(7)治山ダムの間詰	P.17 表記統一
上流部においては、工事完成時の <u>埋め戻し</u> 状況及び、最	上流部においては、工事完成時の <mark>埋戻し</mark> 状況及び、最終	
終堆積状況を想定し、擁壁間詰等の施工位置を決定する。	堆積状況を想定し、擁壁間詰等の施工位置を決定する。	
⑥コンクリート基礎天端までは、 <u>埋め戻す</u> ものとする。	⑥コンクリート基礎天端までは、 <u>埋戻す</u> ものとする。	
(8)下流部分の <u>埋め戻し</u>	(8)下流部分の <mark>埋戻し</mark>	P.18 表記統一
堤体下流部分の <u>埋め戻し</u> は、掘削前の地山同質以上のもので	堤体下流部分の <mark>埋戻し</mark> は、掘削前の地山同質以上のもので <mark>埋</mark>	
埋め戻すものとする。	<u>戻す</u> ものとする。	

IB (R6. 10. 10)	新(R7. 4. 10)	備考(頁は新で記載)
(9) 鉛直打継	(9) 鉛直打継	MIN 3 (Delicity) - Harling
② 伸縮継目	② 伸縮継目	
瀝青繊維質厚 10 mmを標準とし、材料費を計上する。	瀝青繊維質厚 10 mmを標準とする。	
7. 山腹工	7. 山腹工	P.24 表記統一
(1)土留工	(1)土留工	
① 構造及び数量算出	① 構造及び数量算出	
ア) コンクリートブロック関係	ア)コンクリートブロック関係	
1) コンクリートブロックの裏込礫については、以下のとお	1) コンクリートブロックの裏込礫については、以下のとお	
りとする。	りとする。	
d)a)に記した遮水層部は、粘性土等(水の浸透しにくい現	d)a)に記した遮水層部は、粘性土等(水の浸透しにくい現	
地発生土) により <u>埋め戻す</u> こととする。	地発生土)により <mark>埋戻す</mark> こととする。	
4) 水抜きは、2㎡当たり1箇所を標準とし、材料は呼び径	4) 水抜きは、2㎡当たり1箇所を標準とし、材料は呼び径	P.25 別紙別冊に記載が
40mm(外径48mm)の硬質塩化ビニール WU 管とする。	40㎜(外径48㎜)の硬質塩化ビニール WU 管とする。	無いため削除
なお、積算の際には、1本当たりの長さは適宜決定するも	なお、積算の際には、1本当たりの長さは適宜決定するも	
のとするが、裏込コンクリートなしの場合、及び <u>別紙</u> 標準断	のとするが、裏込コンクリートなしの場合、及び標準断面表	
面表を適用する場合は以下のとおりとする。	を適用する場合は以下のとおりとする。	
8. 仮設工	8. 仮設工	P.32 細部基準改正反映
(2)足場工	(2)足場工	
① 適用範囲と使用する足場種類	① 適用範囲と使用する足場種類	
コンクリート構造物はキャットウォークを標準とし、ブロッ	コンクリート構造物 <mark>及び鋼製構造物</mark> はキャットウォークを標	

I目(R6. 10. 10)	新(R7. 4. 10)	備考(頁は新で記載)
ク積の場合は単管(傾斜)足場を標準とする。	準とし、ブロック積の場合は単管(傾斜)足場を標準とする。	
ア)渓間工における横工 <u>(コンクリート構造物)</u>	ア)渓間工における横工	 P.32 細部基準改正反映
② 数量計算	②数量計算	 P.34 細部基準改正反映
ア)キャットウォーク数量計算	ア)キャットウォーク数量計算	
1)設置間隔と設置面	1)設置間隔と設置面	
標準を1.8mとし、横工は上流側及び下流側を計上し、	標準を1.8mとし、横工 <u>(コンクリート構造物)</u> は上流	
土留工、護岸工等は原則として <u>背面側</u> は計上しない。	側及び下流側を計上し <u>、横工(鋼製構造物)</u> 、土留工、護岸	
	工等は原則として <u>上流側・山側</u> は計上しない。 <u>(背面は埋戻</u>	
	しながらの施工を想定しているため。)	
(3)仮締切及び水替工	(3) 仮締切及び水替工	P.35 表記統一
③ 水替工の構造	③ 水替工の構造	
排水樋の構造は別冊 P67_69 のとおり。	排水樋の構造は別冊 P67 <u>~</u> 69 のとおり。	
(5)資材運搬路	(5)資材運搬路	
① 構造	① 構造	
(新設)	設計延長はm単位(小数第1位四捨五入)とする。	 細部基準改正反映